

## ◆ 薬価基準収載医薬品 (2023.11.22) – 報告品目・新キット製品 –

## 【7成分13品目】

## 内用薬

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
11/22	高脂血症治療剤	パルモディアXR錠 0.2mg	0.2mg 1錠	61.30	製造販売元/ 興和	ペマフィブラート	高脂血症 (家族性を含む)	通常、成人にはペマフィブラートとして1回0.2mgを1日1回経口投与する。ただし、トリグリセリド高値の程度により、1回0.4mgを1日1回まで増量できる。	既存の剤形、規格(錠0.1mg)に新剤形、新規格(XR錠0.2mg、0.4mg：マルチブルユニット型の徐放性製剤)追加。
		パルモディアXR錠 0.4mg	0.4mg 1錠	113.40					
11/22	カルシウム受容体作動薬	オルケディア錠 4mg	4mg 1錠	585.20	製造販売元/ 協和キリン	エボカルセト	○維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症  ○下記疾患における高カルシウム血症・副甲状腺癌・副甲状腺摘出術不能又は術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症	通常、成人には、エボカルセトとして1回1mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。患者の状態に応じて開始用量として1日1回2mgを経口投与することができる。以後は、患者の副甲状腺ホルモン (PTH) 及び血清カルシウム濃度の十分な観察のもと、1日1回1～8mgの間で適宜用量を調整し、経口投与するが、効果不十分な場合には適宜用量を調整し、1日1回12mgまで経口投与することができる。  通常、成人には、エボカルセトとして1回2mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。患者の血清カルシウム濃度に応じて開始用量として1回2mgを1日2回経口投与することができる。以後は、患者の血清カルシウム濃度により投与量及び投与回数を適宜増減するが、投与量は1回6mgまで、投与回数は1日4回までとする。	既存の規格(1mg、2mg)に新規格(4mg)追加。

## 注射薬

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
11/22	ヒト抗TSLPEノコローナル抗体	テゼスパイア皮下注210mgペン	210mg 1.91mL 1キット	178,182	製造販売元/ アストラゼネカ	テゼベルマブ (遺伝子組換え)	気管支喘息 (既存治療によっても喘息症状をコントロールできない重症又は難治の患者に限る)	通常、成人及び12歳以上の小児にはテゼベルマブ (遺伝子組換え) として1回210mgを4週間隔で皮下に注射する。	既存の剤形(皮下注210mgシリンジ)に新剤形(皮下注210mgペン)追加。
11/22	長時間作用型ヒト成長ホルモンアナログ製剤	ソグルーヤ皮下注 15mg	15mg 1.5mL 1キット	76,753	製造販売元/ ノボ ノルディス クファーマ	ソマブシタン (遺伝子組換え)	骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症	通常、ソマブシタン (遺伝子組換え) として0.16mg/kgを、週1回、皮下注射する。	既存の規格(5mg、10mg)に新規格(15mg)追加。
11/22	持続型G-CSF製剤	ベグフィルグラスチムBS皮下注 3.6mg「ニプロ」	3.6mg 0.36mL 1筒	61,188	製造販売元/ 持田製薬販売 販売/ニプロ	ベグフィルグラスチム (遺伝子組換え) [ベグフィルグラスチム後続1]	がん化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制	通常、成人にはがん化学療法剤投与終了後の翌日以降、ベグフィルグラスチム (遺伝子組換え) [ベグフィルグラスチム後続1] として、3.6mgを化学療法1サイクルあたり1回皮下投与する。	『ジースタ皮下注3.6mg』(協和キリン)のバイオシミラー(バイオ後続品)。
11/22	持続型G-CSF製剤	ベグフィルグラスチムBS皮下注 3.6mg「モチダ」	3.6mg 0.36mL 1筒	61,188	製造販売元/ 持田製薬	ベグフィルグラスチム (遺伝子組換え) [ベグフィルグラスチム後続1]	がん化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制	通常、成人にはがん化学療法剤投与終了後の翌日以降、ベグフィルグラスチム (遺伝子組換え) [ベグフィルグラスチム後続1] として、3.6mgを化学療法1サイクルあたり1回皮下投与する。	『ジースタ皮下注3.6mg』(協和キリン)のバイオシミラー(バイオ後続品)。

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
11/22	ヒト型抗ヒトTNFaモノクローナル抗体製剤	アダリムマブBS皮下注20mgシリンジ0.2mL「CTNK」	20mg 0.2mL 1筒	15,226	製造販売元(輸入) / 日本化薬 提携先 / セルトリオン・ヘルスケア・ジャパン	アダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続4]	既存治療で効果不十分な下記疾患 ○多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎	<p><b>〈関節リウマチ〉</b> 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続4]として40mgを2週に1回、皮下注射する。なお、効果不十分な場合、1回80mgまで増量できる。</p> <p><b>〈尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬〉</b> 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続4]として初回に80mgを皮下注射し、以後2週に1回、40mgを皮下注射する。なお、効果不十分な場合には1回80mgまで増量できる。</p> <p><b>〈強直性脊椎炎〉</b> 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続4]として40mgを2週に1回、皮下注射する。なお、効果不十分な場合、1回80mgまで増量できる。</p> <p><b>〈多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎〉</b> 通常、アダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続4]として、体重15kg以上30kg未満の場合は20mgを、体重30kg以上の場合は40mgを2週に1回、皮下注射する。</p> <p><b>〈腸管型パーチエット病〉</b> 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続4]として初回に160mgを、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを2週に1回、皮下注射する。</p> <p><b>〈クローン病〉</b> 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続4]として初回に160mgを、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを2週に1回、皮下注射する。なお、効果が减弱した場合には1回80mgに増量できる。</p> <p><b>〈潰瘍性大腸炎〉</b> 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続4]として初回に160mgを、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、患者の状態に応じて40mgを毎週1回又は80mgを2週に1回、皮下注射することもできる。</p> <p><b>〈非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎〉</b> 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続4]として初回に80mgを、初回投与1週間後に40mgを皮下注射する。初回投与3週間後以降は、40mgを2週に1回、皮下注射する。</p>	『ヒュミラ』(アッヴィ合同)のバイオシミラー(バイオ後続品)。
		アダリムマブBS皮下注40mgシリンジ0.4mL「CTNK」	40mg 0.4mL 1筒	27,822			○関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)  既存治療で効果不十分な下記疾患 ○多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 ○尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬 ○強直性脊椎炎 ○腸管型パーチエット病 ○非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎  ○中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る)  ○中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限る)		
		アダリムマブBS皮下注40mgペン0.4mL「CTNK」	40mg 0.4mL 1キット	27,822			○関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)  既存治療で効果不十分な下記疾患 ○尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬 ○強直性脊椎炎 ○腸管型パーチエット病 ○非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎  ○中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る)  ○中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限る)		
		アダリムマブBS皮下注80mgシリンジ0.8mL「CTNK」	80mg 0.8mL 1筒	55,109			○関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)  既存治療で効果不十分な下記疾患 ○尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬 ○強直性脊椎炎 ○腸管型パーチエット病 ○非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎  ○中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る)  ○中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限る)		
		アダリムマブBS皮下注80mgペン0.8mL「CTNK」	80mg 0.8mL 1キット	55,109			○関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)  既存治療で効果不十分な下記疾患 ○尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬 ○強直性脊椎炎 ○腸管型パーチエット病 ○非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎  ○中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る)  ○中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限る)		

(参考)

	アダリムマブBS皮下注		
	20mgシリンジ 0.2mL「CTNK」	40mgシリンジ 0.4mL「CTNK」 40mgペン 0.4mL「CTNK」	80mgシリンジ 0.8mL「CTNK」 80mgペン 0.8mL「CTNK」
関節リウマチ	-	○	○
尋常性乾癬、 関節症性乾癬、 膿疱性乾癬	-	○	○
強直性脊椎炎	-	○	○
多関節に活動性を有する 若年性特発性関節炎	○	○	-
腸管型パーチエット病	-	○	○
クローン病	-	○	○
潰瘍性大腸炎	-	○	○
非感染性の中間部、 後部又は汎ぶどう膜炎	-	○	○

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
11/22	TNFα阻害薬 (一本鎖ヒトTNFαモノクローナル抗体製剤)	ナゾラ皮下注 30mgオートインジェクター	30mg 0.375mL 1キット	113,858	製造販売/ 大正製薬	オゾラズマブ (遺伝子組換え)	既存治療で効果不十分な関節リウマチ	通常、成人にはオゾラズマブ（遺伝子組換え）として1回30mgを4週間の間隔で皮下投与する。	既存の剤形(皮下注30mgシリンジ;プレフィルドシリンジ製剤)に新剤形(30mgオートインジェクター;投与時にボタン操作が不要で、投与前後で注射針が針ガードに覆われる仕様)追加。